

(体育科)

楽しく意欲的に取り組み、ともに高め合う子どもを育てる
～体育科学習を通して～

此花支部（大阪市立伝法小学校）藤岡 賢二・中西 雅則

1. 主題設定の理由

本校では、「心のふれあいを大切にし、自ら学ぶ意欲を持った人間性豊かな子どもを育成する」を学校経営の重点とし、楽しく学習に取り組む中で、基礎基本の力を培うことを目指して指導を行ってきた。一昨年度まで国語科の研究に取り組んできたが、相手の気持ちを考えずに他の児童とのかかわりの中ですぐけんかになる児童も多く、人とのかかわりやコミュニケーション能力に問題がある児童も見られた。そして、昨年度から教科指導の重点を体育科におき、研究主題を「楽しく意欲的に取り組み、ともに高め合う子どもを育てる～体育科学習を通して～」と設定した。昨年度は、研究授業では互いに励まし合いながら体育科の学習に取り組めるようになってきたが、学校生活で落ち着きのない児童が目立ち、学校として思いやりや仲間づくりに課題が残った。原因としては、言語力が低くコミュニケーション能力に問題があること、運動を通して仲間と支え合える集団や思いやりのある集団を育成する指導が足りないことが考えられる。そこで、昨年度の研究主題を引き継ぎ、仲間づくりの活動を通して思いやりのある児童が育つように「ボールゲーム・ボール運動」の学習にしばって研究に取り組むこととした。

2. 研究の概要

(1) 研究の視点

- ① 子どもが、自分のめあてを持って楽しく意欲的に取り組むための方法を工夫する。
- ② 子どもが、互いに教え合い励まし合う場を工夫する。

(2) 研究の内容

- ① 自分のめあてを持って楽しく意欲的に取り組むための工夫

- 学習資料や学習カードの活用

学習資料の活用によって運動の規則・ルールや練習の方法を知り、学習カードの活用によって自分のめあてをチェックしながら学習の振り返りができるようにした。

- 準備運動の工夫

体ほぐし、心ほぐしのため、音楽を活用し、個人技能や集団技能を伸ばす要素を取り入れ、主運動に生かすことができるようにした。

- 子どもの実態に合った学習指導過程の工夫

運動経験の差による子どもの意欲を把握し、どの子どもも楽しく意欲的に運動でき、しかも学びを実感できるような学習指導過程を工夫した。

- ② 互いに教え合い励まし合う場の工夫
 - 互いに教え合えるグループ編成の工夫
リーダーを中心に互いに教え合えるグループを編成した。
 - 用具の工夫
子どもの実態に合った用具を工夫した。
 - 教え合い励まし合う場の設定
作戦タイムや学習を振り返る場を設定した。
 - 学習評価の工夫
学習カードで自己評価・相互評価できるようにした。
- ③ 学校としての体力向上の取り組み
 - 授業における準備運動の工夫による体力向上の取り組み
年間を通して走・跳・投の運動を準備運動に取り入れた。
 - 休み時間の過ごし方の工夫による体力向上の取り組み
12月になわとび、1月にかけ足の時間を業間に設定した。

3. 研究の成果

- 自分のめあてを持って楽しく意欲的に取り組むための工夫
 - ・ 学習カードを使って毎時間振り返り、チームの話し合いや学習内容の自己評価・相互評価したことによって、次時への課題設定を明確化し、児童がめあてを持って意欲的に取り組めた。
 - ・ 準備運動では、主運動につながる運動も多く組み入れながら音楽に合わせて楽しく取り組めるように工夫した。その結果、どの児童も体を十分ほぐしたり気持ちを高めたりすることができた。
 - ・ 子どもの実態に合った学習指導過程を工夫したことによって、どの子も楽しくゲームに参加することができた。
- 互いに教え合い励まし合う場の工夫
 - ・ 低学年においては用具を工夫したことによってどの子も意欲が途切れることなく楽しく運動することができた。
 - ・ 作戦タイムを設定したことによって、チームでメンバーの動き方について教え合ったり励まし合ったりすることができた。
 - ・ 授業の終わりに、学習評価カードを活用したり、学習のまとめを行ったりしたことによって、仲間の良さを認め合えた。
- 学校としての体力向上の取り組み
 - ・ 年間指導計画の中に体力向上の取り組みを組み込んだことで、授業の度に体力向上を意識した活動が行えた。

4. 今後の課題

- 児童の活動に対して指導者の指示が多くならないように、その場その場に合った指導を工夫していく。
- ボールゲームやボール運動において、コートやボールの大きさ、プレーヤーの人数やルールについて学年の発達段階に合ったものにし、次学年につながる運動ができるように工夫していく。
- 試合中は勝負にこだわり、試合が終われば、互いに称賛し合える集団形成の指導を工夫していく。